

① 濱田伊織 著

『英語で伝える和食 : Eat and speak washoku』
(マガジンランド)

和食がユネスコの無形文化遺産に登録されたのは、皆さんご存知でしょう。しかしその和食をいざ英語で説明しようとする、案外難しいものです。

本書ではChapter 1として基本編とマナー編の合計15のFAQを載せています。Chapter 2では、和食のレシピ40を紹介しています。ここでは各料理のレシピの他に、その料理がどんな物なのかの簡潔な英文解説があり、英語で説明する際に役立つそうです。

いずれも日英対訳なので、自分で和食を作ってみる際に英文を読めば、楽しく英語を勉強できる一挙両得の1冊です。(T.F.)

596.21 ||Ham

③ 吉田和正 著

『世界で勝てる人 : トップグローバル企業のリーダーが選ぶ』
(すばる舎)

あなたは真の「グローバル人材」としての条件を、本当に理解しているのでしょうか？ 2012年の厚生労働省が作成した雇用政策研究会資料に記載されている「グローバル人材」の定義は「行動力」・「タフネスさ」・「課題解決力」であります。著者が辿りついた「世界で勝てる人材」の定義には、自ら進んで変化を受け入れ、対応していく適応力を持ちつつ提案力でビジョンを達成するようにする事であると明かしています。あなたもこの機会により進化するために、この本でシェアさせてもらうことを参考に見てみてはどうでしょうか？そして一番大事なことは、より付加価値をつけ、常によりよい未来を描き、目指し続ける姿勢を身に付けることではないでしょうか？(M.F.)

159 ||Yos



② 平川克美 著

『あまのじゃく』に考える』
(三笠書房)

人生は「考え方ひとつ」とよく言われます。考え方ひとつで辛い経験も、失敗もその後の人生を豊かにするための準備であったのだと思えるようになります。しかし言葉で「考え方ひとつ」というのは簡単ですが、どうすればその辛い経験や失敗もこれからの人生の糧にできるのでしょうか？ タイトルにあるように『「あまのじゃく」に考える』とは時流に流されず、群れをつくらず、本質を見失わずと提言されています。

本書では、著者が自分の様々な経験を基に、『「あまのじゃく」に考える』とは、どういうことなのか、自分の活路を見いだすためにはどうしたらよいかをわかりやすく解説しています。(S.S.)

159 ||Hir

④

『ノーベル賞から見る現代物理学の系統』
(ニュートンプレス)

ノーベル物理学賞を日本で初めて受賞したのは、1949年の湯川秀樹氏です。しかし、世界で初めて受賞したのは1901年、X線で知られるドイツのレントゲン氏です。現代物理学の先駆けとなる量子論、相対性理論もこの頃に登場しました。

本書は、ノーベル賞の始まりとなる1901年から2014年までに研究された物理学の内容や業績、歴史の変遷の他、20世紀以前の物理学についても言及しています。

ノーベル賞に選ばれ、自然界や宇宙の謎に触れ、我々の社会発展にも貢献した研究の数々。2015年は、日本の梶田隆章氏がノーベル物理学賞を受賞。今こそ、この100年以上に及ぶ現代物理学の歴史を振り返るではありませんか。(H.I.)

420.2 ||Nobe